

rganic President

有機大富豪

2~4人 5~15分

セット内容

カード(計41枚)



ゲームの目的

手札のカードを化学反応に利用していき、
他のプレイヤーより早く手札を消費しきることが目的です。

ゲームの準備

まず、反応カード36枚をよく混ぜ、プレイヤーごとに裏向きにカードを配ります。配る枚数は以下の表に従ってください。これが各プレイヤーの手札となります。手札は他のプレイヤーに見えないよう注意してください。2人の時、余ったカードは使わないので、手札と混ざらない場所に置いておきます。

プレイヤー数	2人	3人	4人
1人あたりの手札の枚数	12枚	12枚	9枚

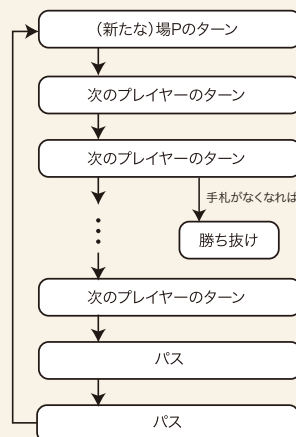
カードを配り終えたら、じゃんけんして勝者を1人決めます。勝者は「場に初めにカードを出すプレイヤー(以下、場P)」となります。「場」とはカードを出す場所のことです。



テーブルの配置図は上のイラストの通りです(イラストは2人プレイ時のもの)。場のカードが「流れた」時は、捨札置き場に移動します。

ゲームの流れ

- 場Pが「場にカードが無い時のターン行動(本紙左下)」を取ります。
- 時計回りに隣のプレイヤーが「場にカードがある時のターン行動(本紙右下)」を取ります。
- 2を繰り返し、最後にカードを出したプレイヤー以降他の誰もカードを出せずに一周したら、場のカードが流れます。
- 1-3を全員の手札がなくなるまで繰り返します。



NOTE

場Pという立場は一時的なものであり、ターン行動をとった後はその立場は失われます。また、場のカードが流れると、場合に応じて新たな場Pが決定します(後述)。

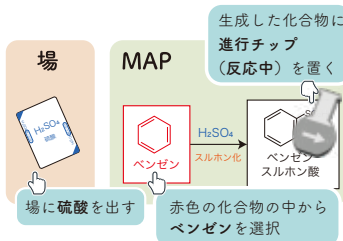
場にカードが無い時のターン行動(場Pのターン行動)

場Pは、行動①~④のうち1つを1回だけ実行します。

①~④とは別に、行動⑤はターン中いつでも・何度でも実行することができます。

①新規生成

マップの中から**赤色の化合物**を選び、そこから出ている矢印(反応経路)の一つ選びます。その反応に必要な化合物を手札から場に出し、矢印の先の化合物に**進行チップ(反応中)**を置きます。



TIPS

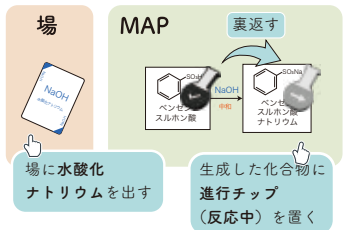
左の反応では反応に使える化合物は**硫酸(H_2SO_4)**と指定されていますが、1つの反応に対し、使える化合物の候補が複数ある場合もあります。例えば反応に必要な化合物として**酸化剤**と書かれた反応では、「**属性**」が**酸化剤**である化合物なら何でも使うことが可能です。

属性はカードの縁に示されています。

これが属性

②反応進行

マップの中から**進行チップ(反応完了)**が置かれた化合物の一つ選び、そこから出ている矢印(反応経路)の一つ選びます。その反応に必要な化合物を手札から場に出し、**進行チップを裏返して(反応中の面にして)**矢印の先の化合物に置きます。



NOTE

すでに進行チップ(反応完了)が置かれている化合物は常に生成することができません。

これは①新規生成の場合も同様です。

イラストの例では、すでに進行チップ(反応完了)が置かれているベンゼンスルホン酸ナトリウムを生成することはできません。そのため、ベンゼンスルホン酸を生成した時点で反応経路はストップし、場のカードが流れます。

③中和／酸化還元

場Pは、手札の**酸**と**塩基**を1枚ずつ場に出すことで、「中和」を実行できます。また、**酸化剤**と**還元剤**を1枚ずつ場に出すことで、「酸化還元」を実行できます。

中和や酸化還元を行うと、すぐに場のカードが流れ、時計回りに隣のプレイヤーが次の場Pになります。



④パス

①~③のどの行動も取れない場合や手札を消費したくない場合は「パス」を宣言します。

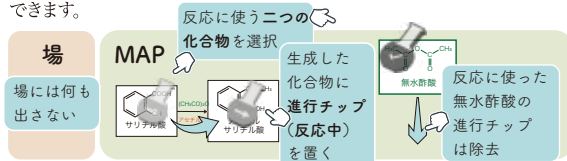


⑤生成済化合物同士の反応

生成済の化合物(進行チップが置かれた化合物)同士で**手札を消費せずに**反応を進めます。

例えば、無水酢酸を生成済の状態②「反応進行」によりサリチル酸を生成したとします。

この場合、⑤「生成済化合物同士の反応」は、ターン中いつでも・何回でも実行できるので、同じターン中にアセチルサリチル酸の生成も行うことができます。



TIPS

⑤の反応で使われることが多いのが**無水酢酸**です。無水酢酸はアセチルサリチル酸の生成など、様々なところで利用されます。

ここで、マップ上で無水酢酸の色が緑色であることが気になった方もいると思います。有機大富豪では、**役割のある化合物には3つの色分けがなされています。**これを意識するとルールが少しわかりやすくなるでしょう。

- 赤の化合物** 無尽蔵に使える化合物
- 青の化合物** 手札となる化合物
- 緑の化合物** 生成後に反応に利用できる化合物

場にカードがある時のターン行動

場にカードがある場合、プレイヤーは**行動①か行動②のどちらかを1回だけ**実行します。

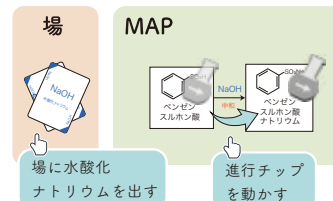
①②とは別に、行動③はターン中いつでも・何度でも実行することができます。

NOTE

一度は場Pとして行動したとしても、二回目以降にターンが回って来た場合はこちらの**ターン行動を取るようになります。**

①反応進行

マップの中から**進行チップ(反応中)**が置かれた化合物を選び、そこから出ている矢印(反応経路)の一つ選びます。その反応に必要な化合物を手札から場に出し、矢印の先の化合物に**進行チップ(反応中)**を動かします。



NOTE

場Pのターン行動②「反応進行」では**進行チップ(反応完了)が置かれた化合物しか選べないのに対し、こちらでは進行チップ(反応中)が置かれた化合物しか選べません。**

②パス

上記のどの行動も取れない場合や手札を消費したくない場合は「パス」を宣言します。



③生成済化合物同士の反応

生成済の(進行チップが置かれた)化合物同士で手札を消費せずに反応を進めます。場Pのターン行動⑤「生成済化合物同士の反応」と同様です。

同様

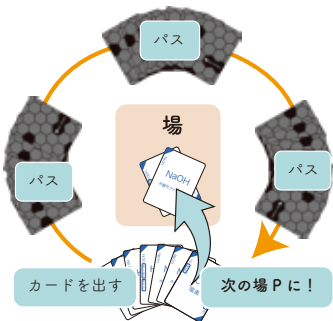
場のカードの流れと次の場P

場のカードが流れる条件は原則以下の3つです。
場が流れると、それぞれの場合に応じて次の場Pが決定します。

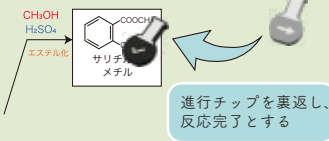
(1) 最後にカードを出したプレイヤーの後、誰もカードを出さずに一周した場合

この場合、一周した時点で場が流れ、次の場Pは最後にカードを出したプレイヤーとなります。

特に、マップ上の終点(これ以上反応できない化合物)にたどり着いた場合は、問答無用で一周したものとみなし、最後にカードを出したプレイヤーが次の場Pになります。



MAP



また、(1)のケースで場が流れた場合、進行チップを裏返す動作が必要になります。進行チップの黒い面はすでに生成が完了した化合物を指し、限られたタイミングでしか利用できません。

(2) 場Pが中和／酸化還元をした場合

場Pのターン行動③「中和／酸化還元」の節でも述べたように、中和／酸化還元が行われるとすぐに場のカードが流れます。この時、次の場Pは中和／酸化還元をしたプレイヤーから見て時計回りに隣のプレイヤーになります。

(3) 場Pがパスした場合

場Pがパスをした場合、時計回りに隣のプレイヤーが次の場Pになります。

ゲームの終了条件と勝敗

以下のいずれかの条件を満たした時、ゲームは終了します。

1. 全員の手札がなくなる
2. 誰も手札を消費できなくなる

2の例: 手札に水酸化ナトリウム・二酸化炭素・還元剤のみが残ってしまった場合

手札が早くなかった順に順位を決定します。終了条件2に該当した時は手札の残り枚数が少ない順に順位をつけます。同数の場合は引き分けとなります。

カードが残った時の勝敗



Q&A

Q. クメンヒドロペルオキシドを分解した後、ピクリン酸が生成され、爆発し、二酸化炭素で消火しました。この状況でアセトンの方の反応を進めることはできますか？

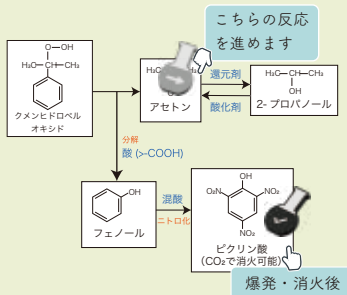
A. できます。
通常は消火に成功したプレイヤーが次の場Pとなりますが、この場合はアセトンの方の反応を続け、最後にカードを出したプレイヤーが次の場Pとなります。

Q. 「反応物」とは何ですか？

A. 他のすべての反応カードの代わりとなるオールマイティカードです。トランプの大富豪におけるジョーカーと同様のものです。予備のカード等ではありません。

Q. 禁止上がりはありますか？

A. ありません。
反応物での上がりや、酸化還元・中和での上がりも問題なく認められます。



特殊な効果・状況

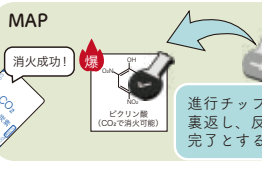
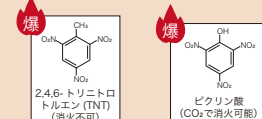
1. 爆発する化合物

マップ上の化合物のうち、左上に「爆」のマークが付いた化合物は生成されると爆発し、マップ上に置かれた進行チップが全て取り除かれます(これまでに生成した化合物が全て消えます)。

爆発する化合物のうち、ピクリン酸の爆発は二酸化炭素によって消火することができます。消火は、ピクリン酸を生成したプレイヤーから一巡する間に他のプレイヤーが場に二酸化炭素を出すことで実行されます。消火に成功すると、進行チップの除去を防ぐことができます。

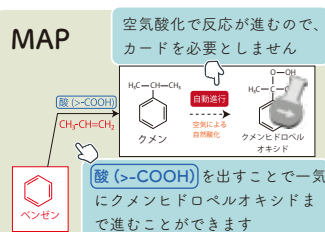
消火した場合は、進行チップを裏返し、反応完了とします。その結果、マップ上に反応中の進行チップが残っていない時は、消火したプレイヤーが次の場Pになります。反応中の進行チップが残っている時の対応についてはQ&Aを参照してください。消火できなかった場合は、爆発する化合物を生成したプレイヤーが次の場Pとなります。

爆発する化合物



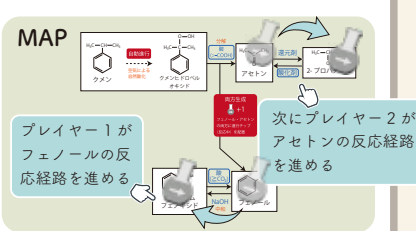
2. クメンの酸化

クメン→クメンヒドロペルオキシドの反応ではカードを必要としません。このような場合、ベンゼンを選択し、酸(>-COOH)を場に出してクメンを生成したプレイヤーがそのままクメンヒドロペルオキシドまで進行チップを進めることができます。



3. クメンヒドロペルオキシドの分解

クメンを酸(>-COOH)によって分解すると、フェノールとアセトンの二つの化合物が生成されます。この場合に限り、全プレイヤーは場が流れるまでフェノールから繋がる反応経路とアセトンから繋がる反応経路の両方を並行して進めることが可能です。場のカードが流れたら両方の進行チップを反応完了に変えてください。

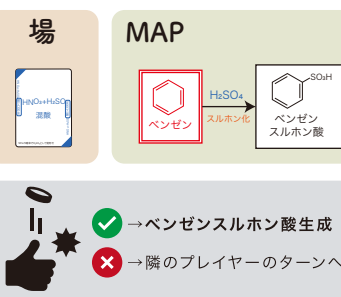


! NOTE 1ターンに両方の進行チップを動かせる、という意味ではありません。

4. 混酸の特殊な利用法

混酸は50%の確率で硫酸(H₂SO₄)として利用することができます。手順は以下の通りです。

1. 硫酸を必要とする反応を混酸で行いたい時に、「混酸チャレンジ」と宣言する。
2. 混酸チャレンジ用チップでコイントスをを行い、成功した場合は混酸を場に出して反応を進める。
3. 失敗した場合は混酸を手札に戻し、時計回りに隣のプレイヤーにターンが回る(パスと同じ扱い)。



! NOTE ※これはゲームをよりエキサイティングにするための特別ルールです(化学的事実から逸脱していることに注意してください)。

クレジット

制作
EXPlayin

連絡先・SNSアカウント
E-mail: contact@organic-president.com
Twitter: @organic_pres
Instagram: @organic_pres

印刷
リトルワークス

ホームページ
公式HP: organic-president.com
販売サイト: organicpres.official.ec

2021年4月 第1版第1刷発行
2021年6月 第2版第1刷発行
2022年9月 第3版第1刷発行

より詳細なQ&A・最新情報などは公式HPをご確認ください。



公式HP



販売サイト